

第 8 8 2 回

## 定例教育委員会会議録

日 時 令和 3 年 2 月 2 4 日 (水) 9 : 3 0 ~

場 所 市民学習センター 2 0 3 号室

益田市教育委員会

## 第882回 教育委員会定例会

招集年月日 令和3年2月24日（水）9時30分～

招集場所 益田市立市民学習センター 203号室

### 議事日程

第1 会議録の承認

第2 教育長報告

第3 議題

報第4号 益田市立匹見小学校及び益田市立匹見中学校同一校舎運営における  
斎藤驍育英基金の活用について

報第5号 令和3年度教育行政の取組方針について

第4 その他

(1) 情報提供

- ・益田市立真砂中学校の閉校式について
- ・ひとが育つまち益田フォーラム2021の開催について
- ・学校給食での「美都いちご」の提供について

(2) その他

出席者

教育委員会

教 育 長	柳 井 秀 雄
教 育 委 員	中 野 純
教 育 委 員	村 上 三 恵 子
教 育 委 員	梅 津 富 美 子
教 育 委 員	大 庭 隆 志

事務局職員

教 育 部 長	野 村 美 夜 子
教 育 総 務 課 長	長 嶺 勝 良
社 会 教 育 課 参 事	岡 崎 賢 一
人 権 ・ 同 和 教 育 推 進 室 長	石 田 公 子
美 都 分 室 長	中 島 純 子
匹 見 分 室 長	齋 藤 一 臣
教 育 総 務 課 長 補 佐	齋 藤 勝 義
学 校 教 育 課 長 補 佐	高 橋 輝 吉
文 化 財 課 係 長	松 本 美 樹
教 育 総 務 課 主 任	中 田 香 織

柳井教育長 ただいまより第882回益田市教育委員会定例会を始めさせていただきます。

それでは、早速ですが議事に入らせていただきます。

## 第1 会議録の承認

柳井教育長 会議録の承認につきましては、先ほどご承認いただきました。

## 第2 教育長報告

柳井教育長 続きまして、第2の教育長報告ですが、4日に益田市教育審議会を開催しております。この会議では、教育委員会が行っております主要事業の外部評価委員からの評価・点検について意見をいただきました。審議委員の方からは、令和2年度が終わり、これから令和3年度に入ろうとしているのに、令和元年度事業の報告を受けるというのはいかがなものかという意見がありました。今年度行っている事業について、外部評価を受けての反省点などにも注意しながら新たに取り組んでいるというところを理解していただいております。

それともう一点は、来年度から始まるGIGAスクールについてのお話をさせていただきました。

続きまして、9日に島根県立大学との連携協議会、22日に島根県立大学との共同研究報告会がありました。益田市は島根県立大学と協定を結んでおりまして、大学生の知恵や先生方の知恵を借りながら一緒に研究を行って、より良いものにしていこうということで行っているところです。

今年度は、益田市教育委員会と特別支援協定について研究をしております。

専門的な用語で曼陀羅アートというものの研究をしております。学校の先生方に、現在の課題に対して、その原因、それに対する行動はどういった方法があるかというところを考えていただき、特別に支援を要する子どもたちに対しての支援のあり方を学んでいくという方法について研究をいただいております。

それと、もう一つは、ロボットを使って、遠くにある大学の先生が、授業の様子を見て支援、指導することができるというシステムについて研究をされている先生と共同で研究を行っております。

また、入学初期の文字に対する指導については、別の先生から指導をいただいております。

島根県立大学との共同研究はこの1年で終わるのではなく、来年度も続けて行っていただけるということになっております。

続きまして、15日には益田市いじめ問題対策連絡協議会がありました。これは、大津市で起きました中学2年生のいじめによる死亡、その事件をきっかけに、いじめ防止対策推進法が策定され、各県、市において、いじめ防止の基本方針を作ることとなり、対策連絡協議会ができました。いじめ問題対策連絡協議会では、いじめに関わる方々が集まり、いろいろ情報を共有して、助言や指導をいただくという会議でありました。

益田市では、前年に比べていじめの件数については少ないようですが、軽微なけんかなどを含めると件数としてははすごく増えています。

学校では、よりアンテナを広くして、早い対応を行うことで早期に解決していく。難しい課題に対しては、関係機関に集まっただき解決していくという方向で取り組んでおります。

以上、主なところを報告させていただきました。この件についてよろしいでしょうか。

教育委員

=全員了承=

### 第3 議題

#### ○報第4号 益田市立匹見小学校及び益田市立匹見中学校同一校舎運営における斎藤驍育英基金の活用について

柳井教育長

それでは、これから第3の議題に移らせていただきます。

報第4号益田市立匹見小学校及び益田市立匹見中学校同一校舎運営における斎藤驍育英基金の活用についてお願いします。

長嶺課長

令和3年度から、匹見小学校に中学校の生徒が入ってきて、1階が小学生、2階が中学生のクラスということで、1つの校舎の中で学んでいくという益田市として初めての取組が始まります。こういった初めての取組において、児童生徒の学校教育の環境の充実を図っていきたいというところを、この斎藤驍育英基金を活用して行いたいと考えております。

この斎藤驍育英基金が設置された経過につきましては、匹見町出身の斎藤驍医師が匹見町内の教育振興に資するということで、昭和60年にご自身の現金あるいは広島市内の土地や建物を売却して、7,600万円を当時の匹見町に寄附されております。この寄附を基金として創設して、給付型の奨学金や校外学習等に活用してきているところです。

基金の残高としましては、昨年度末のところ2,877万6,000円になっています。

この基金を活用しながら、校外活動に活用させていただいておりますが、学校内でいろいろな異学年の交流など、そういった経費も含めて活用していききたいというところで、この度、条例改正等について議会へ提案していきたいと考えております。以上です。

梅津委員 給付型の奨学金の基準についてお尋ねいたします。  
長嶺課長 現在はそれぞれの家庭の所得に応じて申請していただいている状況です。  
人数もだんだんと減ってきているという状況にあります。

梅津委員 ありがとうございます。  
柳井教育長 それでは、この件についてよろしいでしょうか。  
教育委員 =全員了承=

## ○報第5号 令和3年度教育行政の取組方針について

柳井教育長 それでは続いて、報第5号令和3年度教育行政の取組方針についてお願いいたします。

長嶺課長 これは毎年3月議会の初日冒頭に、益田市長から新年度の様々な施政の方針を述べられます。その後に、教育行政について教育長がこの取組方針について述べていただくということになっております。

施政方針と教育行政の取組方針の中身は、益田市全体の取組ということですので、同じ内容のところも当然あります。

文章の流れとしましては、「はじめに」から始まりまして、最後の「安全で安心な教育環境の整備」まで、大きくは4点という形で教育長から申し上げていくという形になります。

昨年までは、もっとたくさんの大きな項目がありましたが、集約をして、なおかつ人権問題というところを、最初の「はじめに」というところでしたっきりと述べていただくという整理をしております。来年度、教育委員会として取り組んでいきたいというものが、これが全てということではなく、書かれていないこともあります。主要な政策としてこの4つを挙げさせていただいて、それぞれについて記載をしております。以上です。

村上委員 質問はありませんが、昨年と比べまして、説明がありましたように、「はじめに」のところで人権問題について取り上げていただいていると感じておりました。

また、主要施策の項目についても、これまでのそれぞれの項目をまとめられて、4つの柱を出されたというところは、例えばこの4つの柱がこれからの教育行政の中で大きな柱として進められていくことになっていくのかなと感じました。

それと、これまでありました「公民館の活動の充実」の項目について、「未来を担うひとづくりの推進について」というところの中でうたわれているというところが、やはり生涯学習を通じて、人づくりをしていくというところの流れが明確になったと感じ、良かったという感じを受けました。

そうした中で、人権問題というのも本当に重要なところではありますが、「はじめに」のところで重要性を述べていく分、なかなか具体的な取組な

ど、そういったところに触れることが少し難しいというところもあったので、しっかり取り組んでいくという言葉で表現されたのではないかとこのころは少し気になりましたが、項目ごとにきちんとまとめられていると感じました。

柳井教育長 いろいろな事業を行う上で、その根底にはそういったものがないと、なかなかうまく機能せず、より良いものになっていかないという強い思いがあって、人権同和教育については、初めに書かせていただきました。

大庭委員 令和3年度の教育行政の取組方針ということで、令和3年度に向けては、4項目の「学び続ける子どもの育成」、「未来を担うひとづくり」、「益田市歴史文化基本構想の推進」、「安全安心な教育環境の整備」、この4つが大きな取組としてこれから展開されていくということを見て感じました。

その中で、昨日、EAGAでありました歴史を活かしたまちづくりシンポジウムに参加して、質問しようかと思っていたことがありましたが、その答えが、こういうことだというのが分かったことがありまして、9ページにある文化財保存活用地域計画ですが、シンポジウムで聞いた中で、文化財を普通保存するとなると、やはり壊さないように、傷まないように、ただ目隠しをした状態で置いておくイメージがありますが、そうではなく、いろいろな人たちに分かるような形で見せるということで、文化財の中でも、見えないものが見えるようになって、その意味を認識し、そこに新たな価値が出てきて、多くの人々が興味を持ってくるということが、要するに文化財を保存するというところに繋がってくるのだということを感じました。

そういうことで、この文化財保存活用地域計画の国内第1号という意味は、非常に大きな価値があると思いますので、ぜひ強調していただきたいと思いました。

松本係長 そのように感じ取っていただいたのは、大変ありがたいことで、これからも取組を続けていきたいと思いを新たにしたところです。

大庭委員 もう一点、安全で安心な教育環境の整備という部分ですが、例えば異物混入など、昨年も何件かあったということを前にご説明いただきましたが、そういった部分で、やはり気をつけていかなければいけないというようなこともあります。直近のこととしまして、前回の教育委員会でも触れておられましたが、例えば冬場、特に調理場では水を使いますが、凍結によって水道管の破裂等、いろいろなことで水が使えなくなる。そうすると、このたびのように、家庭にお願いして弁当を持参してもらうというようなことも起こってくると思います。そういった部分もこの度の教訓を生かして、次年度しっかり取組をしていただきたいと思いました。

柳井教育長 ありがとうございます。

梅津委員 少しずれるかもしれませんが、学校給食の件です。

地元の農林水産物を利用して地産地消に取り組むということですが、東部から転校された中学生から、柿やみかんが木から落ちて取らないままの状態だけれども、何でそういったものが学校の給食に出てこないのかということを知りました。せっかくの自然の恵みが、そのまま腐っていく、そういったものを見ると何か忍びない気持ちがしますが、そういう自然の恵みを生かした、そういったものがデザートにも付くような配慮があったら良いと思いました。納める方が決まっているというのものもあるのかもしれませんが、地産地消を生かすというところで私も同じように感じました。

長嶺課長

児童生徒の人数を考えた時に、一度に用意できるかというのが1つ大きな問題であるというのが現実です。

例えば、美都調理場では、食数が少ないので食材を揃えることができることもあるかと思いますが、高津学校給食センターでは、4,000食を提供していますので、それだけのものが、同じ品質のものがきちんと確保できるのかという大きな問題があります。気持ちは分かりますが非常に難しいものがあります。ただ、そうは言いますが、本日の情報提供でも挙げておりましたが、美都のいちごなどを使ったデザートを提供するなどしておりますので、しっかりと対応をしていきたいと思っております。

梅津委員

ありがとうございました。

柳井教育長

それでは、この件についてよろしいでしょうか。

教育委員

=全員了承=

柳井教育長

それでは、以上をもちまして定例会を終わります。

次回は3月26日の15時00分から定例教育委員会を開催いたします。よろしくお願いいたします。それでは以上で定例教育委員会を終了いたします。ありがとうございました。

=終了時間 10時19分=